

尼崎の森中央緑地の自然共生サイトの認定決定について

【概要】

令和4年12月に開催されたCOP15での国際目標「30by30（陸域と海域の30%以上を保全）」に基づき、環境省が令和5年度に創設した生物多様性に貢献する地域の認定制度「自然共生サイト」に前期認定申請していた「尼崎の森中央緑地」が自然共生サイトとして認定されます。

なお、10月25日付けで認定され、同日認定証授与式が開催される予定です。

（参考）

1 「尼崎21世紀の森構想」について

- ◆ 国道43号以南の尼崎臨海地域1,000haを100年かけて魅力と活力あるまちに再生するプロジェクトとして平成14年に策定

2 「尼崎の森中央緑地」について

- ◆ 「尼崎21世紀の森構想」の実現に向けて、尼崎市臨海部のかつて製鉄所などの工場があった約29.1haの埋立地に平成18年開設、生物多様性豊かな森づくりを推進（令和4年度入園者数:約29万人）
- ※ 指定管理者:公益財団法人兵庫県園芸・公園協会、公益財団法人尼崎緑化公園協会、阪神園芸株式会社の共同体



申請区域：朱線で囲んだ部分



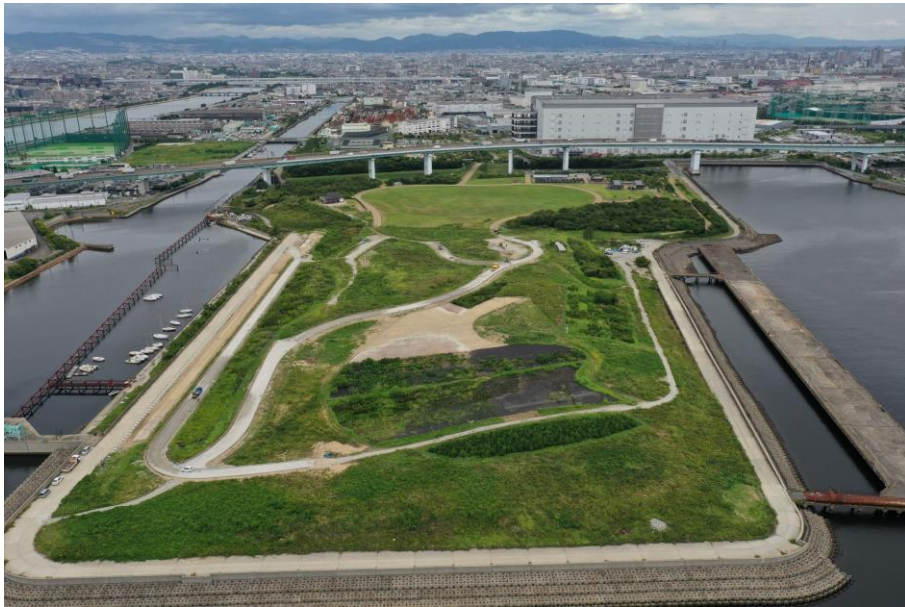
かつての尼崎臨海工業地帯
(兵庫県発行絵はがき、S39年頃)



将来像（全体イメージ）

【申請の際のPRポイント】

- ・ 尼崎21世紀の森構想に基づき、工場跡地で植物がほとんど見られない場所でゼロからスタートした森づくり。
- ・ 市民団体や地元企業などと協力し、六甲山系や武庫川水系、猪名川水系など、地域の在来種から種子を採取し、育てた苗木で植樹活動を行う先進的な取組を実施。
- ・ 学識者の指導・助言に基づき、森づくり当初から動植物の詳細な生態調査を実施。
- ・ 森づくり開始から17年間で、131種、約10万本の苗木を植栽。様々な鳥類や昆虫類の生息につながっている。
- ・ 創出した森でありながら、環境学習や自然観察、間伐体験など、里山林で実施しているような、様々な自然体験ができる貴重な場所に育っている。



ナミアゲハ（在来種）



シジュウカラ（在来種）



上空から見た植栽17年目の
コナラーアベマキ林



植栽から17年が経過した
コナラーアベマキ林



キバラハキリバチ
* 環境省レッドリスト準絶滅危惧種



コサメビタキ
* 兵庫県レッドリストランクC